

## 研究紀要の発刊に寄せて

現代は不確実性や曖昧性に富む将来の予測が困難な時代（＝VUCAの時代）と呼ばれています。そうした時代にあって、教師自身が変化に対応した資質能力を身に付けるためには、常に最新の知識や技術を学び続けていくことが求められています。

静岡県総合教育センターは、平成7年8月の開所以来、「本県の学習と教育の中核的存在として、新しい時代の人づくりを目指す」ことを基本理念に掲げ、高度で専門的な研究を基盤とした質の高い研修を実施することにより、学校や教職員を支援し続けてまいりました。

当センターでは、「研究」を「研修」と並ぶ主要事業と位置づけており、学校が直面している教育課題の解決に向けた取組に対する支援や教職員の資質向上を目指した各課を中心とした研究を重視しつつ、所員の校種を超えて組織を横断して編成したプロジェクトチームによる研究にも精力的に取り組んできました。この研究紀要は、当センターにおける研究成果を、本県教職員をはじめとする多くの教育関係者の皆様と共有するものです。

本年度の研究紀要には、研究計画の完了年度にあたる教育相談課による研究、「子どもたちを援助資源につなげる教育相談体制づくり～一人ひとりの多様な課題を支えるために～」について成果をまとめ掲載いたしました。本研究は、不登校を中心とした学校不適應の未然防止のため、一人一人異なる課題を抱える子どもの援助要請を見逃さず、適切な援助資源につなげることができる相談体制づくりを提案するものであり、小中学校、高等学校、特別支援学校、全ての校種の教職員の皆様の要望や期待に、多少なりともお応えできるものと考えております。

当センターは、今後とも研究と研修の一層の充実を図り、本県教職員の資質向上を通して、未来の創り手である子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。

本研究を進めるにあたり、御協力をいただきました関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

静岡県総合教育センター  
所長 杉山 禎